

(様式3)

平成21年度「学力向上のための取り組みについて」

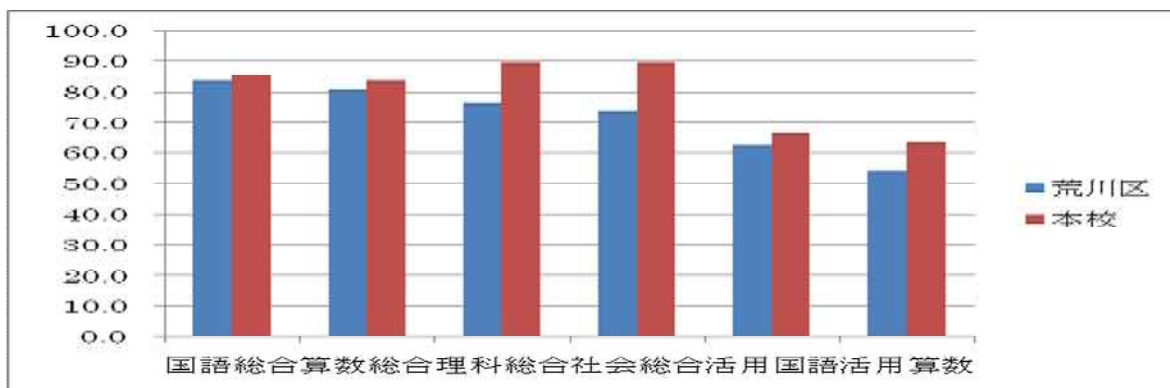
平成21年6月15日

学校名	荒川区立尾久第六小学校
校長名	長谷川秀紀

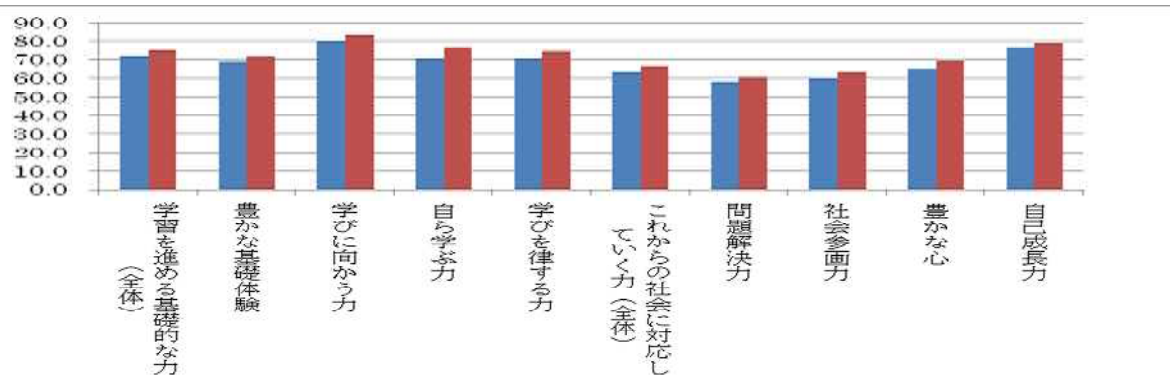
1 平成20年度「学力向上のための調査」結果分析

(1) 明らかになった成果

平成20年度の学力向上の取り組みの結果、全学年で実施した国語・算数、5年で実施した社会・理科、新たに調査が始まった5・6年で実施した活用(国語・算数)について、いずれも区全体の達成率を上回る結果となりました。



また、意識に関する調査では、学習を進める基礎的な力ならびにこれからの社会に対応していく力のいずれも区全体の達成率を上回る結果であることが分かりました。



これらの結果は、調べ、考え、伝え合う学習をテーマに進めてきた授業力向上をめざした教職員の取り組みとともに、子どもたちの学習に立ち向かう意欲と態度が向上してきた結果と考えます。また、確かな学力を身につけさせたいという保護者の方々の願いと支持・協力も大きな土台としてあったと考えています。

(2) 課題の分析と改善の視点

本校児童は、基礎的な学力はおおむね身につけているといえます。

平成21年度の学力向上の取り組みを進めるに当たり、確かな学力向上を、活用の力を伸ばす中で基礎的な力も伸ばしていくという視点から取り組みを進めます。

活用の力として、問題解決力やまとめたり書いたりする力、感じ取る力、文章や図表・資料を読み取り、活用して考える力、発想力、論理力、思考力、言いたいことを的確に伝える表現力、発表力、コミュニケーション力、自分の学習課題を進んで解決しようとする意欲を伸ばすことが必要です。

さらに、学習プロセスを自らのものとし、自主的な学習取り組みができるよう指導することも重要です。また、学習規律・学習習慣の確立は不可欠です。

全ての学年の取り組みとして、次の取り組みを行います。

国語は、聞く話す力の向上や書く力の向上を図ります。

算数は、数量や図形についての知識・理解の力を伸ばします。

社会・理科についても、知識・理解の能力を伸ばします。

また、学習意欲や関心の喚起・学習継続力の向上など学びを律する力や目当てを持って授業や家庭での学習に取り組むなどの自ら学ぶ力を伸ばします。

学習したことを自分なりにノートにまとめるなど学習の定着や目当てを持って授業に参加するなどの学習計画力、調べて分かったことを考え・まとめ・発表するなどの問題解決力についても、いっそう主体的な学習力を伸ばします。本年度は、あらたに概念図法やイメージマップなどを取り入れた授業の取り組みやワークショップ型学習を進めます。

学習規律の確立や習ったことを繰り返し学習するなどの基本的学習習慣の確立を目指し、保護者の協力を得ながら、宿題や読書など家庭学習の定着をはかります。

基礎的な学力を重点的に伸ばす児童に対しては、一人一人の学習状況と習得状況をふまえて個別指導を進めます。特に、国語・算数については全員が学習して身につけるべきミニマムを明らかにし、単元ごとに学期ごとに習得できるよう、保護者の協力を求めながら、児童が進んで取り組むよう支援します。

また、学習支援が必要な児童に対する個別指導は、チーム支援シートを作成し、学校と保護者の連携協力をいっそう強めていきます。

保護者と児童の状況について共通理解を図り、基本的な生活習慣の定着と確かな学力の習得に努めます。

2 学力向上を図るための学校としての考え方

一人一人の児童が、課題を持って積極的に学習に取り組む子の育成を図ります。そのため、すべての担任が、子どもと個人面接を行い、子どものモチベーションを高め、一人一人の児童の実態に即し、チーム力を生かした学級学年経営と学習指導に努めます。

<学習に進んで取り組む子ども>

学習問題や課題に計画的に取り組む子。

毎時間のめあてをもって学習する子。

学習プロセスをもとに主体的に学習を進められる子。

分かったことを教えたり、自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えられる子

もっと知りたいことを調べ、筋道立てて考え、まとめる子。

学習の場で自分の考えや思いを場にふさわしい言葉遣いで発表する子。人の意見を聞いて、自分の考えをいう子。

正しい姿勢で学習する子。話し手の方を見て、話をしっかり聞く子。

調べたいことを人や図書や学習資料・コンテンツやインターネットを活用して、学習問題を解決する子。

教科書を音読する子。

大事なことはノートにきれいに書く子。

進んで読書する子。読んで感じたことを伝えられる子。低学年は年間100冊以上、高学年は50冊以上。

毎日家庭学習する子。低学年は毎日45分、高学年は60分。休みの日も続ける。

テストやドリルなどで100点取る子。間違ったときは、直して100点取ること。

土曜スクールや日本語検定に参加する子。

3 学力向上のための学校としての取り組み

(1) チャレンジする教師の育成に向けて(授業力向上など)

情報教育拠点校ならびに授業力向上プロジェクト指定校として、調べ学習をテーマとした授業力の向上に努めます。これまで研究実践してきたICTの日常的な活用の他に、図書資料の活用・人材活用などを進め、児童が自ら調べ考え伝え合う子の育成を目指し、授業研究を中心に互いに検証しながら児童のステップアップを進められる授業力の向上を図ります。

そのため、大学教授を講師に招聘し、年間13回の研究会と研究発表会を行います。

先進地区の研究視察を積極的に行い、情報を教職員で共有すると共に、見通しを持って日々の計画的な授業に生かせるようにします。

学力向上マニフェストにもとづく予算執行を適切に行い、授業力向上に努めます。

(2) 確かな学力の定着・向上に向けて(授業改善など)

「今日の自分より明日の自分、よりよい自分を目指して、Do my Best」。児童の自己理解を高めるとともに、保護者が我が子の確かな成長を実感できるよう学習指導を進めます。

学習意欲の喚起や学習継続力の向上、学習習慣の定着は、学力向上の土台です。できましたことや分かったことをほめ、児童の意欲の喚起に結びつけます。できなかったところを努力目標として指摘し、児童自ら進んでがんばるようモチベーションを高めます。「今日はいっぱい本を読んだよという実感」「今日は友達に教えてあげられたよという喜び」「今日は分からないことを調べて納得できたという感動」など児童が自ら学び自ら考える学習を進めるため、日々の授業の工夫改善に努めます。

学期ごとに一人一人の児童の学習の進捗状況を評価し、児童が自分の課題は何か把握できるようにするとともに、教師はどこを伸ばしたらいいのか、児童にポイントを示しながら授業を進めます。また、繰り返し学習は、どこが分からないのか、できないのか明確にし、目標をもって取り組めるようにします。さらに、活用発展の力を伸ばしていくために、効果的な問題を開発し、児童が興味関心をもって自力で問題解決に取り組む授業を工夫します。

教材研究を重ね、教科指導を行います。また、各教科などの教材の開発や活用の推進を行います。教材や教育情報の収集とその共有化に努めます。また、各教科等はもとより、多様な指導を工夫し、豊かな体験活動や考えを深め・広げる問題解決的学習を重視した学習指導を行います。さらに、楽しく学べる問題や考えを深める問題などのよい問題の情報交換を行い、優れた学習活動が展開できるようにしていきます。

教育課程(学習指導要領等)に基づく教育活動を進めるため、学年・学級経営案、年間指導計画、週案の作成、提出をするとともに、各教科等の指導計画や評価規準などをもとに指導方法の工夫改善に努めます。また、新指導要領への移行措置をふまえ、時数確保とともに滞りなく進行させます。

教育用コンテンツ(配信コンテンツ・デジタル教材・自作教材)、テレビ会議等のICTの効果的活用を各教科の指導計画に位置づけ、日々の授業に取り入れ、基礎的な学習や活用・発展の力を伸ばしていきます。

都や区教育委員会等の研修会や荒教研に参入し、授業力の向上に努め、日々の指導に生かします。

また、校内研究を進め、指導力の向上を図ります。その際には、研究推進委員会・研究分科会を中心に、授業内容の検討を重ね、より効果的な指導計画や問題の開発を行っていきます。

同時に、算数では習熟度別指導や算数TTが有効な指導になるように、扱う問題を児童の実態にあったものができるよう開発していきます。

(3) 基本的な学習習慣の確立に向けて(家庭学習を含む)

授業における学習規律(けじめ)を確立します。

- ・今日の授業の目標や課題を書く。
- ・授業の開始時刻で着席する。
- ・授業の始まり、終わりのあいさつをする。
- ・鉛筆を削ってくる。名前をきれいに書く。
- ・先生や友達の話や説明はおへそを向けて聞く。
- ・椅子をきちんと引いて、姿勢正しく授業を受ける。
- ・ノートの使い方を学ぶ。
- ・指名されたら返事をし、大きな声で発言する。

家庭での学習は、保護者の方に児童の学習の様子を見てもらうよう、声かけをしていきます。宿題は、低学年は毎日45分、高学年は60分をめやすに出し、家庭学習の習慣を定着させます。休みの日も家庭学習に取り組むよう、児童・保護者に声かけをします。

(4) 国語力の向上に向けて

国語では読む力と書く力を伸ばしていくため、国語の授業を充実させていきます。また、感想文や本の紹介などを通して読み取る力や文章で表現する力・発表する力、言葉で伝え合う力を育てていきます。教科書の文章のどの言葉からどんなことを感じたか、考えたか等の学習活動を進め、読み取る力を育てていきます。作文の学習では、自分の感じたことや考えたことを書き表す小論文をまとめる指導をします。また、授業に教科書等の音読を日常的に取り入れ、はっきりとした声で表現できる素地作りをします。

区の感想文コンクールには全児童が参加し、書く力を高めます。

学校図書館の大改造を引き続き進めます。図書の購入とともに、「本を読むことを楽しむ、広げる、深める」など、読書活動を積極的に推進します。また、調べ学習の場として情報活用センターとしての機能を高めます。

- ・週3回(火・水・金)、朝の読書の定着。
- ・どの子も、低学年は年間100冊以上、高学年は年間50冊以上、読書する習慣。
- ・毎日20分休み、週2回(水・金)の放課後は、学校の図書室から本を借りて自宅で読むよう、児童・保護者への声かけ。
- ・学期に1回読書週間をもうけ、読書週間の定着。
- ・新規購入の図書を含め、児童が活用しやすいよう計画的に学校図書館の環境整備。
- ・尾久図書館の団体貸し出し制度の活用。
- ・図書館指導員によるブックトークなど児童が図書の活用ができるよう援助します。
- ・保護者・学校関係者による図書ボランティアの協力をうけ、読み聞かせ・図書の紹介などを行い、本好きの子どもを育成。
- ・先生が紹介する本やクラスのみんなで読みたい本など、学級ごとの読書活動の取り組み。教室・廊下などの掲示物など、子どもの学びの共有とともに、言語環境を工夫する。

(5) 土曜スクールや補充学習について

あらかわ土曜スクールを年間11回行い、算数と国語の復習を中心に基礎力をつけるための補習指導をします。今年度新たに、基礎力をつける指導資料を購入整備します。また、多くの児童が参加するよう、児童・保護者に声かけをします。

児童の習得状況をふまえ、授業以外の時間(放課後や20分休み)を使つての個別指導を行い、一人一人に応じた学習問題を出すなど補充学習を行います。

